

テント一週一文（ゆ）—— 2月28日川内原発行政訴訟傍聴記 （続）＋西山進さんの「漫画しんぶん」103号

（承前）

3月も下旬になり、手袋をしなくて10時からのテントの設営作業をする日が多くなりました。手袋がなくても指がなめらかに動く位暖かくなってきたのです。桜の便りも聞かれる時期なのです。「原発いらない」の黄色い旗をテントの脚に結び付けている女の人（以下「旗」）に「お早うございま〜す」と男の人が挨拶をしながら、「遅れまして……」と自転車を停めます（以下この方は「自」）。「自」さんは西新に住んでいて、自転車で30分ほど走ってテントに来るのです。この日は「自」さんを入れて4名で設営しました。

旗：今日は気持ちが悪かったでしょう、風はさわやかで。

「自」は「風はさわやかではあるんですがね、少し強いとこれがね」と背中と胸元に下げている「玄海原発再稼働反対」の黄色い少し大きめのゼッケンを握ってひらひらさせます、「案外揺れるんですよ」。

旗：バランスが取れない？

自：倒れるほど強くはないのですが、ハンドルが取られることはありますね。

旗：じゃ危ないでしょう。

自：ハンドルを取られて自分がオットットとなるのは仕方ないですが、横に人がいる時は気を使いますね。その人の方に傾くと、その人にジロリと見られる場合が多いですからね。

旗：気をつけろ、っていう風に？

自：ジロリと見られる、と言っても本当にそんな風に見ているかどうかは分かりませんよ。このゼッケンがあるので、そう見られていると自分で感じるんです。

旗：歩いている時と自転車に乗っている時とでは横を歩いている人への対応も違うんですね。

自：そんな時もある、位の違いですよ。しょっちゅう気にしていたら身が持ちません。

「旗」は「アラ？」とつぶやいて、「九電さん 玄海原発動かさないで」という呼びかけ文の横に漫画家の西山進さんがお母さんと子どもの絵を描いている布を手にして「この横断幕はどこに下げるのかしら？」とほとんど飾り付けも終わったテントのアチコチを見えています。

「自」は「それはですね……」と言いながら、九電の玄関に向いているテントの面に掛けます。

旗：そこですか？

自：違います？

旗：マ、そこに掛けておきましょう。違っていたら、誰かが直すでしょう。

自：エ？ あなたはテント皆伝で、テントのことはみんな知っているんじゃないですか？

旗：以前よく来ていた時はどれは、どこに、どんな風に掛けるかは覚えていたんですけど、近頃があまり来ないので、忘れてしまったんですよ。

自：それに掛ける物も掛ける場所も変わりますからね。

旗：変りますからね、とおっしゃいますけど、あなたが変わっているんじゃないですか？

自：僕が変わることもありますけど、ほとんどの場合は村長さんですよ。

旗：アララ～。ともかくこれで朝の作業は終わりですね。

自：僕は遅れて来て何もしなかったですね。

旗：西山先生の横断幕を掛けてくれたじゃないですか。

自：そういわれると、本当に何もしなかったように聞こえますね。

旗：イエイエ、とんでもないですわ。

自：実は村長さんに見ていただきたいものがあって、持ってきたんですがね。

旗：村長さんは先ほど車の旗を立てに行っていましたね。もう直ぐ帰って来るんじゃないですか。

自：村長さんは既に知っているものなんですけどね。私はまとめただけなんですよ。

旗：まとめた？

自：覚えています？2月28日の川内原発行政訴訟の裁判。

旗：もう1ヶ月も前じゃないですか！

自：そうなんですよ。でも「もう」かどうかは分かりません。その2月28日の裁判の傍聴記が紹介されていましたね。

旗：覚えているわ。これよね。

一週一文（て）http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180312kuriyama.pdf

自：その前後に村長さんのメイリングリストやフェイスブックに傍聴記、と言いますか、裁判の報告と言いますか、その種の文書が掲載されていたんですよ。で……

旗：で～？

自：茶化さないでくださいよ。私は気が小さいので茶化されると風にあおられた自転車みたいにフラフラしてうまく喋れないんですよ。

旗：誰も着けていない脱原発のゼッケンを着けて自転車で走っているんですから、気が小さいことはないでしょう。もう2年も3年もそのゼッケン？

自：「もう」じゃないですね。「まだ」です。

旗：失礼いたしました。

自：それでですね…… 「それで？」と聞かないでくださいね！

旗：分かっていますよ。

自：僕の見たのを三篇だけまとめてみたんですよ。これなんです。

旗：これを村長さんに見ていただくの？

自：まとめてみたものですからね。

旗：村長さんは直ぐ帰って来るでしょうから、それまで私にも読ませてね。

自：どうぞ、どうぞ。それとですね……

旗：拝見したわ。皆さんの、ぜひこの裁判に注目してほしい、と言いたい気持ちがあるから感じられるし、この裁判が負けるわけがない、という自負も伝わってくるわ。これを、ホラ、さっき言った小林さんの傍聴記の補足として紹介したらどう？

自：なるほど。それとですね……

旗：私に判ること？

自：判るも判らないもないのですがね、さっき西山さんの絵をそこに掛けたでしょう。その西山さんの「漫画しんぶん」の103号が出たので、それを持ってきたのですよ。

旗：アラ、そちらも見せて。

自：どうぞどうぞ。

と春のテントの一日が始まりました。

(文責 栗山次郎)

2018年4月9日公開

西山進さん「漫画しんぶん」103号

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/nisiyama103.jpg